

朝日新聞（3月2日版）に掲載されました

当社が現在、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所、国立大学法人電気通信大学、宮城県農業・園芸総合研究所と行っている共同研究「施設栽培トマトにおける振動を用いたオンシツコナジラミの防除」についての実験の紹介が、2020年3月2日の朝日新聞朝刊『科学の扉』欄に掲載されました。

これは、2018年2月に当社が国立大学法人東北大学と共同発表した「圧電素子を超える振動発電機能をもつクラッド鋼板」を応用したものです。クラッド鋼板に磁界の変化を与えると、磁歪振動を生じるので、超磁歪振動素子並みの力強い加振装置（アクチュエーター）を製作することができます。

本研究はトマトの茎や葉に、このアクチュエーターによる振動を伝えることにより、農薬を用いずに害虫オンシツコナジラミからの被害を防ぐことを目的としています。実験では害虫の嫌う周波数の振動を断続的にトマトへ与え続けると、振動を与えない場合に比べ幼虫の個体数が減少する効果が認められました。記事では、これら害虫の防除についていくつかの事例が紹介されています。この他に、当社開発のアクチュエーターによる農業関連の共同研究は国内数か所の試験場で進められていることが紹介されています。

以上

(写真)



アクチュエーター展示品